

OB が追い続ける“日本一”

卒業後、クラブチームに所属して、日本一の夢を追い続ける OB 達が語り合いました。



2017 年 12 月 29 日 居酒屋ふるさと五兵衛さんにて

座談会参加メンバー

(左奥)34 代: 宮下翔太: 2010 富山インカレ出場。最初の勤務地で日本リーグチームに在籍。

第 35 回全日本クラブ選手権優勝。現在は浅野と同チームに所属。

(左前)33 代: 浅野由嗣: 2010 富山インカレ出場。千葉県のクラブチーム所属。

(右奥)28 代: 吉永崇人: 2006 豊橋インカレ出場。地元就職し、新潟県のクラブチーム所属。

2017 夏引退。

(右前)28 代: 森高紘平: 2006 豊橋インカレ、2008 東松島インカレ出場。勤務先の山口県でクラブチーム所属。第 32 回全日本クラブ選手権三位。2016 夏引退。

はじめに

森高:30 周年からの 10 年間で、理科大ソフトボール部 OB が全日本クラブ選手権にて世代を超えて集うことができました。これは全国大会出場に加えて、嬉しく楽しい喜びでした。今は別チームで日本一を目指している者同士、情報交換したいと思い、集まってもらいました。

ソフトボールを続ける理由

森高:まずは理科大ソフト部 OB 初の日本リーグ一、宮下。チームに入ったきっかけは？

宮下:就職先の勤務地に日本リーグチームがあったこと、ソフトボールがもっとうまくなりたい思いから、せっかくならばトップチームに入ろう思ったわけです。

吉永:飛び込む勇気すごい。他のメンバーは日本代表とかいる中で、よく受け入れてもらえたね。

宮下:ソフトボールをうまくなりたい気持ちには負けていませんでした。それが伝わったと思います。



宮下氏

浅野:日本一を獲らなきゃいけないというプレッシャーは感じていた？

宮下:もちろんメンバー全員が感じていました。もちろん県内・地区大会では負けられませんし。チーム内には日本一を獲った喜びも大きかったですが、安堵も大きかったと思います。

吉永:森高も確かツテのない状況から飛び込んだんだよね。

森高:宮下と理由は同じ。チーム探しのために国体練習に参加して、そこに参加しているクラブチームメンバーに入部をお願いした。入ったチームは、元は町内大会に出るレベルの団地チームだったけど、高いレベルでのソフトボールを目指すチームに意識が変わり、クラブ選手権出場にまでなったチーム。エリート感がなく、自分に合っていたね。

浅野:クラブチームの醍醐味ってそういった歴史がそれぞれあるところにもありますよね。

吉永:浅野は松戸市のクラブだよな。俺らが現役時代も何度も練習試合してもらったチーム。関東に就職するにあたって誘われていたの？

浅野:在学中から卒業したら来ないかと声はか

けていただいていた。卒業してもソフトボールしたいと思ったのは、大学最後の年にインカレに出られなかった悔しさが強かったです。クラブチームでもう一度全国大会という祭りに出たいと思いました。

森高: その感覚わかる。あのお祭り感って他にはないよな。

宮下: 吉永さんは地元新潟でどうやってチーム選びされたんですか。

吉永: 高校OBが中心になって作ったチームに入った。地元就職が決まる前から声かけてもらっていた。

森高: 大学の関東地区・東京地区にも同世代の高校OBいたよな。

吉永: そう。高校時代は一緒にインターハイにでて、大学ではインカレをかけて対戦した先輩後輩と卒業後は同じチームで全日本クラブ選手権目指している。

浅野: 強豪校あるあるですね。

日本一目指してどんな練習している？

吉永: 日本リーグのチームはやっぱり練習量が多いイメージあるけど、どう？

宮下: 基本的に練習は平日週2回のナイターです。土日は練習試合・公式戦です。

ナイター練習ではノック・フリー・ティーバッティングでボール触ることがメインの練習でした。

吉永: もっと練習しているイメージだったが、日本一を獲るチームでもそのくらいの練習量なのが意外。クラブ内競争も厳しそうなので、平日の個人練習をどれだけやれるかが重要そう。



宮下: 個人練習内容は人それぞれですが、ボールを使った練習はしにくいですよな。

そのため、全体練習では少しでも上手になれるように”捉え方の工夫”をしています。

例えばノックは下手なメンバーでも、予測できない打球を受けることで、反応力が高くなるといった、ポジティブな捉え方をしていました。

浅野: 確かに、限られた時間での練習でいかに吸収するかを考えたら、少しでもポジティブに受け止めていった方がいいね。

森高: 個人練習として俺は走りまくった。毎日10キロ。チームメンバーとは離れた地域に住んでおり、キャッチボールもできなかったので、ひたすら走った。もちろんシャドーピッチングもした。

吉永: 森高が走っていたなんて信じられない。

森高: 自分自身も信じられない。ただ、投手として学生時代から課題のコントロールを高めるにはどうしたらいいか考えた結果。チームメイトにインカレ優勝経験者がいて、投手はどんな練習をしていたかを聞いた。「基礎体力があって当たり前。その上に技術がのる」とごく当たり前のことを言われ、そこから見直した。ずっと練習できる持久力がつき、ボールを投げ続けられた。

吉永: 学生の中から走っていたら、もっと良い投手になっていて、インカレ予選で投げさせてもらえたかもね。

森高: そういった悔しさが俺を育てたよね。

チーム運営の課題

森高: 大学と違って、クラブでソフトボールをやる上で難しい部分ってどんなところがある？ 共通するところは多いと思うけど。

浅野: やはり練習場所・時間・試合に出るメンバー選定じゃないですか。

吉永: 練習場所は本当に課題。決まった場所では取れないし、各方面に協力してもらって、空いているグラウンドを確保している。グラウンドも無料では借りられない。

宮下: 練習場所が確約できている状況はかなりアドバンテージですよな。練習のみに時間を割けるし。

吉永: そもそも県内各地から集まるから、移動時間もばかにならない。2時間くらいかけて練習会場に通っていた。

森高: 俺も1.5時間かけて通っていた。往復の交通費4千円/回。練習中に受けるノックが一球あたりいくらで、その分うまくなっているのか自問自答した。すべて集中して練習しないと時間もお金ももったいない。

宮下: メンバー選定とは何ですか？

そういうチームへの参加状況がまばらな中で、公式戦出場メンバー選定は難しいと思います。勝ちたい想いと一生懸命頑張っている想いのどちらも大事にしたい。メンバー選定は明確・公平であることが大事ですね。



浅野氏



浅野氏

森高: しっかりしないとチームがガタガタになっちゃうね。勝つことを優先するチームだったので、実績最優先だった。チャンス貰った代打や継投で、コツコツと結果を出していくしかない。

吉永:メンバー全員が集まれるタイミングがなかなか取れないって難しさもあるよな。みんな仕事や家庭の合間を縫って練習や試合に参加している。全国大会でも全員がこられない。

浅野: 9人以上そろっての練習ってなかなかない
ですね。

吉永:揃わないので、練習内容が限られる。練習試合の日程も組みにくい。

森高:でも、不思議と全国大会予選となると、当日揃ったメンバーは同じ眼つきになっている。

宮下:練習にこられなくても根底にある全国大会に出て勝ちたい！という思いは一緒なのでしょうね。

吉永:それでも負けるときは、連携ミスだったりする。全国大会優勝するには練習・試合での取り組み意識を高め、吸収力を格段に上げないといけないと思う。

宮下: 現役にはグラウンドがある、選手がしっかり揃うという貴重なソフトボール環境・時間を大切にしてほしいです。

森高:道具類はどう？チーム共通品？

吉永:基本的には共有だけど、バットは個人で合う・合わないがあるから個人購入している人も。

宮下:新規格バットへの対応はですか。

吉永:チーム共有分は新規格対応バットへ年 2 本ずつくらいのペースで更新している。

浅野: 共有とはいえ大きな出費ですね。

吉永:しかも、すぐ折れちゃう。また、使い比べていないと合うか合わないかわからない。

森高: バットは消耗品だよな。弾くバットはなるべく試合でしか使わないようにしていた。

吉永:いろんなバットを買って試していくしかない
よね。これは必要な出費だと思う。

森高: 同じ悩みを抱えているであろう現役へさらなる支援の申し出と受け取っていいのでしょうか。

吉永：ソフトボールの道具購入にお金かかるのは選手の立場として理解できるって話です。

浅野: 確かにそうですね。現役へのバットやボールといった道具購入支援は厚くしてあげたいです。

全日本クラブ選手権での再会

森高:理科大ソフトボール部 OB 同士が全日本クラブ選手権で対戦相手として会うのが実は楽しみだった。

吉永:2012年京都府舞鶴市行われた全日本クラブ選手権での開会式ではお互い違うユニフォーム・違うメンバーに囲まれていて、ちょっと違和感だった。

平成24年度 第33回全日本クラブ男子ソフトボール選手権大会

開催 平成24年7月14日(土)～15日(日)
会場 千葉県野村町 東舞鶴運動公園野球場

大会概要はこちら

	1 4月	1 5月	6 8月
1 千葉東葉風采ソフトボールクラブ	岡山		
2 山梨クラブ	山梨	12	
3 K. W. H. S.	静岡	11	3
4 十一人クラブ	石川	8	1
5 京都東	大阪	3	
6 Y&A近畿	新潟	9	1
7 福千喜フィアンス	茨城	1	
8 京都島崎クラブ	京都	8	
9 北九州W.C.	熊本	1	2
10 豊満一	山口	3	1
11 京都クラブ	京都	4	1
12 山やぶソフトボールクラブ	宮城	3	
13 ミチオオサンシキクラブ	広島	3	3
14 神楽山クラブ	千葉	3	9
15 鶴田クラブ	熊本	0	
16 オーストエスC	愛媛	7	
17 下関西園ソフトボールクラブ	山口	9	2
18 京成東	奈良	10	7
19 鶴田クラブ	神奈川	5	6
20 ダイオウタ	佐賀	12	1
21 YAMAGATA C.L.B.	山形	4	2
22 京都サッポーククラブ	京都	7	0
23 A.L.S.T.A.W.S.	三重	0	
24 多良見ブラックス	福岡	4	
25 新豊ソフトボールクラブ	福岡	7	0
26 高知下谷クラブ	高知	3	5
27 赤松アーストメイトクラブ	沖縄	5	
28 リンダバンプフォー	広島	1	4
29 山形S・北光	北海道	0	
30 岐阜サウザンズC	岐阜	13	7
31 七瀬ソフトボールクラブ	鹿児島	1	6
32 大島南風	大分	4	3

大会結果はこちら

第33回全日本クラブ男子ソフトボール選手権大会トーナメント表
新潟県代表新潟ソフトボールクラブ:吉永氏所属
山口県代表豊浦ゼータ:森高氏所属

浅野: 全国の舞台で OB が所属するチーム同士の試合してみたいですね。

森高: 浅野・中山(33 代)も出場していた高知県高知市での全日本クラブ選手権(平成 26 年)、実は宮下が所属するチームと一回戦で当たった。でも宮下はいなかったもんな。だから、正確にはまだクラブ選手権での OB 対戦は実現していない。

宮下: 仕事の都合で出場できなかったんです。事前に連絡までいただいていたので、対戦したかったです。

浅野: 試合後の我々のチーム飲み会に参加してくれましたね。



第 35 回全日本クラブ男子ソフトボール選手権大会 開会式前
左: 33 代浅野氏、中央: 33 代中山氏、右: 28 代森高氏

森高: 学生時代に交流させていただいたチームでもあるのでお礼もこめて、乱入しました。

ほとんどのチームが同じ市内に宿泊するから、夜の宴会も近いところで盛り上がっている。

二次会の時間になると、強豪大学出身者でクラブチーム出場しているメンバーは同窓会になっていて、世代を超えた交流があるようで羨ましかった。

吉永: それには全国大会に出続けるチーム作りが必要だな。

森高: 2016 年富山県富山市で行われた第 37 回全日本クラブ選手権には、第 25 代 OB の堀田さんが石川県から応援に来てくださった。

その試合は日本リーグチームとの試合で、負けてしまったけど、力をもらいました。

吉永: 全国大会(全日本クラブ・教員・実業団・総合・国体)が同窓会になるように卒業後も日本一を目指す OB が増えてほしいね。

クラブチームでの喜びの一コマ



↑ 宮下氏



↑ 浅野氏、中山氏(33 代)、藤井氏(35 代)



↑ 吉永氏



↑ 森高氏

終わりに

現役各位

ぜひ貴重な“今”を大切に、競技力向上に打ち込んでください。

OB各位

現役の日本一に向けて、ご声援・物品購入 & 遠征費支援は必ず力になります。一層のご声援・ご支援よろしくお願いたします。